

【合同資源みらい賞】

かわむら ひとし

川村 均

先生、あれは僕にとって、生まれて初めてのビンタでした。

中学の廊下で、しかも往復でした。

その直後「わかったか、こうして責任をとらされることもあることを覚えとけ」と言い、

さっと立ち去って行かれました。が、先生の目が真っ赤だったってこと、

涙を見せないために即座に立ち去ったこと、しっかり目に焼き付けていました。

教室に入ると「音が聞こえた」と言われました。が、これをきっかけにクラスが、

もうひとつまとまりを欠いていたクラスが、まとまり出したのです。

すべて計算ずくと思いました。

確かに、隣のクラスの授業に差しさわりあるほど騒いでいてはいけません。

それを見過ごしていた学級委員もいけません。

今なら大騒ぎになるビンタでしょうが、あ那时候クラス全員が正面から受け止めました。

思うところがあって僕は、就職後、他県に転勤されていた先生のお宅に伺い、

泊らせてもらいました。夜遅くまで歓談し、最後に奥さんから

「あなたって、うちの主人に似ている」とまで言われました。光栄でした。

あれから50余年。あ那时候の生徒は先生の享年を超えました。

クラス会で訪問時の話をするたび大受けです。

やすらかにおねむりください。

(神奈川県/70歳/男性/主夫)

入賞者の作品への大切な想い…

恩師というより、恩人へ伝えられなかった積年の思いを打ち明けようという思いでした。伝えきれているのかなという思いでしたが、賞に入って伝わっていることが改めて嬉しく思いました。